

平成29年度「グッジョブおだわら」における上位賞の結果と取組内容

取組名	担当課	取組内容	取組の効果(サービス面・経費面・業務能率等の効果)	備考
板橋・南町地区「歴史的資源を通じた賑わいと交流のまちづくり」都市再生整備計画の策定	都市政策課	小田原駅、早川駅周辺では既に都市再生整備計画を策定し整備を進めている中、その間をつなぐ板橋・南町地区において、新たに「旧松本剛吉別邸、皆春荘の保全活用」「小田原水保保全事業」「板橋旧街道横断線地中化」「かまぼこ通りの活性化事業」などの事業で歴史まちづくりを進めるため都市再生整備計画を策定した。	計画策定に当たり、お城通り再開発事業、市民ホール整備、小田原城址公園整備、かまぼこ通り・銀座竹の花地区の支援事業など小田原駅周辺の実業と一体的に取り組む事業として、内閣府・国土交通省の地方再生コンパブリシティモデル都市にエントリーしている。 これにより、交付金の内示率低減もフォローされる見通しとなり10億円以上の効果が見込まれる。 また、歴まち計画を併せて改定し、補助率が40%から45%に加算される歴まち重点計画の認定を受けることができた。 <見込まれる国庫補助金の効果額> ・板橋・南町地区の都市再生整備計画事業 約3億4000万円 ・お城通り、市民ホール整備事業の内示率アップ(都市再生) 約4億4000万円(最大) ・城址公園整備等の事業採択 約8500万円 ・市単独ソフト事業の地方創生推進交付金事業化 約5900万円 ・暮らしにざわい再生事業・街並み環境整備事業 約3億円程度	グッジョブ大賞
設計者を重視した2段階方式による新たなデザインビルドプロポーザル	文化政策課	設計業界からの信頼回復、デザインへの配慮、計画の実現性、多くの建設事業者が参加できるか、シンプルで使いやすい質の良いホールは整備できるのか、他の自治体の先進事例となり得るかの6つの視点から、設計者を重視した2段階方式のデザインビルドプロポーザルを実施して、整備事業者を選定することとした。	整備手法の検討をした平成28年度は、国土交通省の「多様な入札契約方式モデル事業」(予算額800万円)の選定をうけ、NCM株が派遣され、内外の発注方法に詳しい東北大学大学院教授の小野田氏と共に事業スキームの構築を行った。 構築した事業スキームでは、予算を10億円減額し、設計及び施工費用合わせて総額63億円という限られた予算の中で、如何に市民と策定した「市民ホール基本計画」の内容を最大限実現できるかという主眼のもと、市が求めるホールの最低限の仕様を定めた要求水準書を作成して、平成29年7月に公募型プロポーザルを開始した。 結果、4者からの応募があり、審査を2段階とし、1次審査と2次審査の間の期間を十分に取ることににより、2次審査において更なる提案内容の改善を図ることが出来た。その結果、基本計画のかなりの機能が実現するシンプルで使いやすく、リーズナブルなホールが整備できることとなった。	金賞
旧片浦中学校の活用	企画政策課 教育総務課 学校安全課	旧片浦中学校を、学校法人の運営する通信制高校及び学生寮として活用するために、約20年間の土地建物賃貸借契約を締結し、市は今後年間約400万円の貸付料収入を得る。 活用開始にあたっては、必要な境界確定や、国有地の払下げ、地目変更登記等行い、公図や登記簿等資料を現況と整合させた。	光熱水費や清掃に係る臨時職員賃金等これまで年間約450万円要してきた維持管理経費は学校法人負担となるうえに、年間約400万円の貸付料収入が発生する。 なお、学校法人の学校運営に支障のない範囲で、地域住民団体等の利用について継続できる。 さらに、学校法人は、他の地域で、生徒による地元農家の手伝いや祭りへの参加、駅や道路の清掃活動等を通じて地域活性化に貢献しており、本市でも同様の貢献が期待できる。	銀賞
ふるさと応援寄附の大幅な増加	広報広聴課	・返礼品に、季節限定品や定期便などを追加し、当初の80品目から200品目以上に大幅に増加した。 ・新たに『楽天ふるさと納税』、『Yahoo!ふるさと納税』を加え、申込ポータルサイトを3サイトに増やした。 ・新聞等に広告記事を掲載したほか、 六本木ヒルズなど都内でブースを設けPR を図った。	・申込サイトを2つ追加したことで、ポータルサイトの既存会員を含めた幅広い年齢層からの寄附が増加した。 ・魅力的な返礼品を用意したことで、 15億6870万円以上(前年比965%増)の大幅な寄附額増加 につながった。 平成27年度 寄附件数4,860件 寄附金額181,371,704円 平成28年度 寄附件数19,797件 寄附金額1,750,090,727円(前年比965%増) ・定期便やリピーターの増加により、市内事業者の魅力向上につながった。 ・小田原を知らなかった人にも、アプリの利用やお礼状を通じて小田原の魅力の周知につながった。 ・市民が市外の方に返礼品を贈ることで、市の魅力の醸成につながった。 ・地域経済の活性化に大きく寄与した。 (約7億円の経済効果) ・実質的な市の歳入増をもたらした。(寄附額から返礼品等 必要経費を差し引いた歳入額745,733千円)	銅賞
受付窓口の表示方法改善	教育指導課	藤色通路の両端に、各課名と主な業務内容を①～④の案内番号と併せて掲示するとともに、それぞれの受付カウンターと上部(天井からの吊るし表示)にも対応する番号を提示することで、来庁した市民がストレスなく目的の窓口に行けるように案内表示の方法を変更した。	これまで訪問した市民から、「～のことはここでいいですか。」と声をかけられることが多くあったが、案内表示を変更した後は、「～の手続きをお願いします。」と言われることが増えた。これは、来庁した市民にとっても迷いなく目的の課に来られていることの証であり、職員にとっても他課への案内を行う必要がなくなり、業務の無駄を省くことにつながった。	身近な改善大賞